

して定義されるため、複雑に変化する界面位置を逐次追跡することなく取扱うことができ、デンドライトのような形態変化も容易にシミュレートできる。

の時間発展方程式はフェーズフィールド方程式と呼ばれ、 ϕ の分布は、バルクの自由エネルギーと界面領域の自由エネルギーの和として与えられた系の全自由エネルギー（式(2)）の変分により計算される。

$$\dots\dots\dots(1)$$

$$\dots\dots\dots(2)$$

$$(\phi, \psi) = (\dots)$$

参 考 文 献

- 1) 大中逸雄：コンピュータ伝熱・凝固解析曇 籍